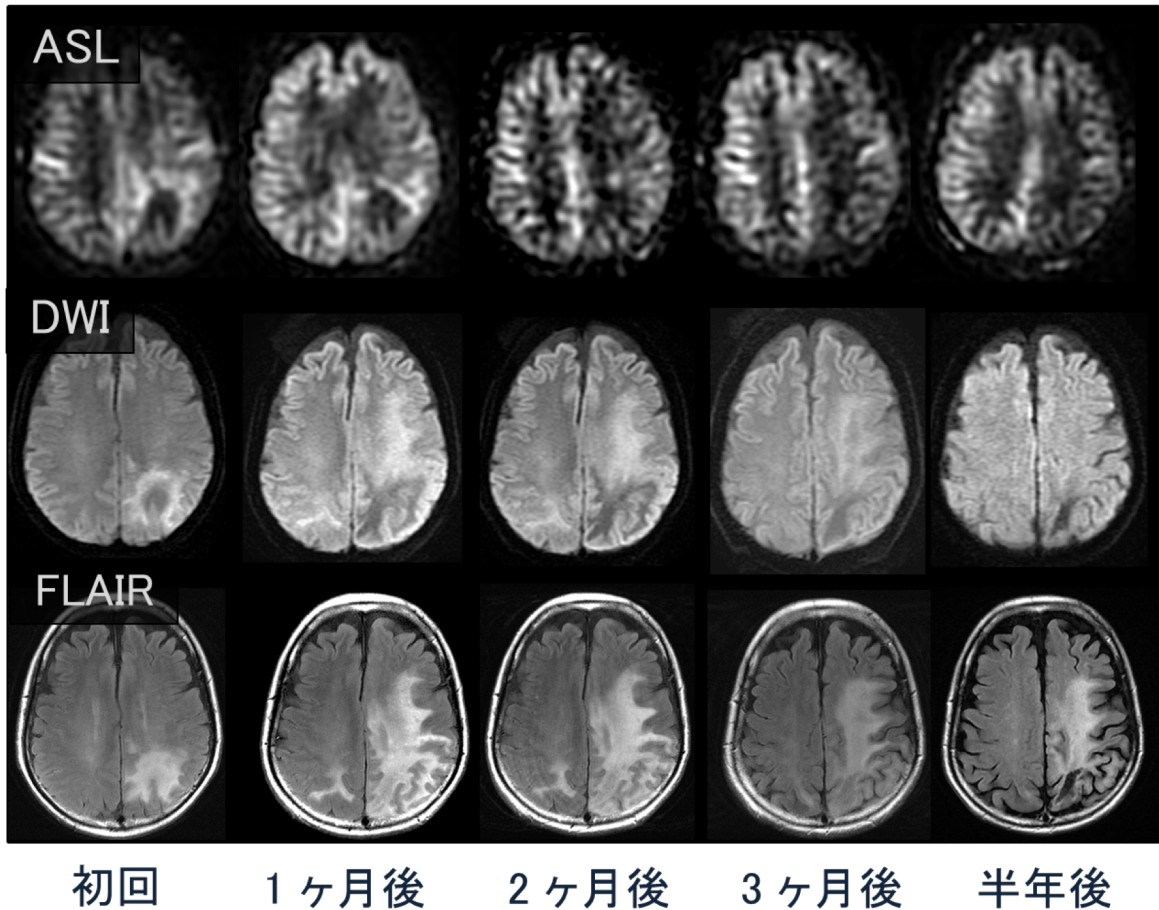


多巣性白質脳症(PML)を含む遅発性ウイルス感染症の 画像診断の向上に関する研究

研究分担者: 徳島大学大学院医歯薬学研究部放射線医学分野 原田雅史

60歳男性、PML症例



解 説

1. PMLの初期には白質病変はDWIで高信号を呈し、ASLでも辺縁の血流の増加が示唆される。
2. 晩期ではDWI及びASLの高信号は低下しており、FLAIRでの高信号が残存する。
3. ASL,DWIの高信号は、PML病変の病勢を反映すると考えられ、予後予測や治療効果の評価に利用できると考えられた。